

3 部	1 年次	通 年	公共	履修形態	全員履修
				履修単位	2
科目の目標				教科書	190東法公共712:公共
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を迫及・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質を、次の通り育成する。 (1) 諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付ける。 (2) 事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、議論する力を養う。 (3) 愛国心や、平和と繁栄、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。				副教材等	なし
				履修条件	特になし

授業計画(学習内容、単元の目標・ねらい)						
期	月	学習内容(単元)	単元の目標・ねらい			
前①	4・5	公共的な空間をつくる私たち ・青年期 ・自己形成の課題	知識・技能	自らを成長させる人間としての在り方生き方、また自らの価値観とともに他者の価値観を尊重できることを理解するとともに、関連する技術を身に付ける。		
			思考・判断・表現	集団の一員として生き、他者との協働により、公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。		
			主体的に学習に取り組む態度	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳や自主・自律、人間と社会の多様性・共通性に着目し、主体的に社会参画する人間としての生き方を探求する。		
前②	6・7	公共的な空間における基本原理と日本国憲法 ・民主権 ・人権保障 ・平和主義	知識・技能	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解する。		
			思考・判断・表現	法による支配の中で、公共的な空間における基本原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。		
			主体的に学習に取り組む態度	よりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることに向けて、自主的に課題を追究したり解決したりする活動を行う。		
後①	9・10・11	日本の政治機構と政治参加 ・国会 ・内閣 ・裁判所	知識・技能	よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解する。		
			思考・判断・表現	日本の政治機構について、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その解決に向けて事実をもとに協働して考察・構想し、表現する。		
			主体的に学習に取り組む態度	政治的な諸課題に関わる具体的な主題を設定し、他者と協働して主体的に主題を追究したり解決しようとする。		
後②	12・1・2	豊かな生活の実現 ・消費者主権 ・労働者の権利 ・社会保障の役割	知識・技能	雇用や労働問題、社会保障の充実と安定化に関する現実社会の事柄や課題を理解するとともに、情報を適切かつ効果的に収集しまとめる技能を身に付ける。		
			思考・判断・表現	豊かな生活の実現に関して、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その解決に向けて事実をもとに協働して考察・構想し、表現する。		
			主体的に学習に取り組む態度	豊かな生活を実現するための諸課題に関わる具体的な主題を設定し、他者と協働して主体的に主題を追究したり解決しようとする。		

評価規準(「おおむね満足できる(B)」と判断できる状況)				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価のポイント	前①	青年期の課題や、自己形成の過程に関して理解し、自己の生き方・在り方や他者との共生の大切さについて理解している。	社会集団の一員として自己を認識し、他者との協働によりつくる公共的な空間について思考・判断し、表現できる。	青年期の課題や自己形成について関心を持ち、主体的に学習に臨もうとする態度が見られる。
	前②	法の支配の原理や日本国憲法の内容に関して理解し、公共的な空間の中で存在していく技能を身に付けている。	法の支配について多面的・多角的に理解し、法の下での社会の中の一員としての思考・判断・表現が適切に行える。	法の支配の原理や日本国憲法の内容に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする態度が見られる。
	後①	よりよい社会の実現に向けての政治機構の役割について正しく理解し、関与していく技能を身に付けている。	日本の政治機構について、自立した主体としてその課題について思考・判断し、表現することができる。	よりよい社会の実現に関心を持ち、政治機構の役割について主体的に学ぼうとする態度が見られる。
	後②	労働問題や社会保障の充実と安定化に関して正しく理解し、豊かな生活の実現に生かす技能を身に付けている。	豊かな生活の実現に向けて、労働や社会保障に対する思考力・判断力を身につけ、表現することができる。	労働問題や社会保障に関心を持ち、豊かな社会の実現に向けて主体的に考えることができる。
評価の場面		定期考査・小テスト 授業中の発言や発表内容 ワークや演習問題での取組 授業内容に基づく技能の実践	定期考査・小テスト 授業中の発言や発表内容 グループワークでの取組 作品の制作や表現	ノート(レポート)の記述 授業中の発言や発表内容 授業態度や取組む姿勢 自己評価や相互評価